

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:32

個別性のある新人看護師への支援に向けた文献検討

島尻麻由, 藤木弥生, 酒井周平

個別性のある新人看護師への支援に向けた文献検討

旭川医科大学病院 ICUナースステーション

○島尻麻由 藤木弥生 酒井周平

I. はじめに

近年、発達障害や配慮を必要とする学生は増加傾向にある。また、そのような看護師が就労している施設は74.1%にも及び、職務に支障を来しているという報告もある。本研究では、個別性のある新人看護師に対する教育的な支援について文献検討により示唆を得ることを目的とした。

II. 方法

1. 対象論文の抽出

医学中央雑誌Web版データベース(ver.5)を用いて「発達障害」「看護」「支援」をキーワードに、過去5年以内の原著論文に限定して検索した。看護師対象は1件のみであったため、看護学生も対象とした。

2. 分析方法

論文を精読し、「発達障害及びその疑いのある看護学生または看護師に対する教育的な支援内容」を具体的に示す記述を整理した。分析過程では、共同研究者間で繰り返し検討し妥当性の確保に努めた。また、質的研究の経験がある専門看護師の客観的意見にて真実性の確保に努めた。

3. 倫理的配慮

分析対象とした論文は全て公表されているものを対象とし、著作権の保護に努めた。

III. 結果

4件の文献が抽出された。共通して「コミュニケーション方法の工夫」があり、「統一した態度」で「同時に2つ以上の指示をださない」よう「本人のペースを尊重」しながら、「より具体的に」「短く直接的に話す」関わりを行っていた。また、「承認行動」として存在を認め「精神的支援」を行っていた。

IV. 考察

新人看護師育成は多重課題への対応が重要視されており、発達障害をもつ人はこれらを苦手とすることから、「同時に2つ以上の指示をださない」や「本人のペースを尊重」した配慮として、具体的に指示をしたり、紙面などで目に見える形で渡すことが望ましいと考えられる。

V. 結論

発達障害または発達障害の疑いのある新人看護師を対象とした国内文献は非常に少なく、支援の現状は明らかにならなかったが、コミュニケーション方法に工夫が必要であることが示唆された。